

子どもと保護者と教職員とともに考える！



人権フォーラム新聞



令和5年10月24日発行第9号

3年生では、10月10日に県人権教育指導員の中原サヲ江先生を講師でお招きして、『結婚差別について』という演題で講演をしていただきました。講演会を通じて、徐々に解消しつつはあるものの未だに続く厳しい結婚差別の現状を知り、どれだけ深刻な問題かを理解すると同時に、「差別をなくそう」という思いがさらに強くなりました。授業後のお子様の感想を読んで、私たち教員もともに学ぶ喜びや、お子様の心の成長を感じております。今回は3年生が学習後に書いた感想を各家庭に持ち帰り、それを読まれた保護者の皆さまの感想と、生徒の感想を掲載して、子どもと保護者と教職員で考える機会にしたいと思います。

生徒の感想より



- ★中原さんの話を聞いて、自分の知らないことがたくさんあり驚きました。結婚差別によって命を絶つ人やお腹の子どもを中絶してしまうなど、差別の怖さを再確認しました。6月に識字学級に行ったときに、「差別をなくす仲間になってほしい」という言葉をいただきましたが、今はこの言葉がとても大切でもっと意味が深いということに気が付きました。将来自分も結婚差別を経験するかもしれないので、この問題に真剣に取り組んでいきたいです。
- ★結婚差別の話聞いて、「差別は誰も幸せにしない」ということを思い知りました。もしかしたら親の反対に遭うと、最初は抵抗していても、言われ続けたり親との関係がこじれたりしてしまうことに疲れてしまうかもしれません。しかし、結婚はどんなことも二人で乗り越えていけるような人になりたいし、周りに何を言われても、自分の考えがぶれないようにしたいです。
- ★前に習った「幸せのカタチ「家」」で、結婚に反対された2人が、その後また毎日連絡を取り合う関係になったという内容で話は終わっていましたが、その後、この二人はどうなったと思うかを考えた時に、「子どもをつくって周りに認めさせたらいいのではないか」と思いました。しかし、中原さんの話の中で、その状況でも、周りから説得されて、お腹にいる子どもをあきらめ別れさせられた事例を知り、自分の考えが浅はかだったと思いました。結婚差別で自分の命を絶ってしまうおもうとする人もいたり、お腹の中にいる子どもを中絶してしまったりと、差別は人の命を奪ってしまう本当に怖いものなんだとわかりました。それが今もまだ、実際に残っているから、こうして人権学習をしているんだと改めて思いました。

★今日中原さんが「家で家族と、もし私が部落出身の人と結婚すると言ったらどうするか。」と家族の人に聞いてみてください。」と言われましたが、私は以前この問いを親にしました。親は、「誰と結婚してもいいよ。」と答えてくれてうれしかったのを覚えています。だから、私もそういう親になりたいです。

保護者の皆さまの感想より

- ★結婚差別について改めて考えさせられました。
- ★差別問題に対し、純粋に向き合っています。人間としての成長をこれからも見守り、行動のできる人になって欲しいと思います。
- ★差別のない、お互いの人権を尊重できる社会となって欲しいと願います。
- ★私達が子どもの時から部落差別について学習する授業はありましたが、今でも結婚差別などがあると関係者の方の講演でも聞きました。子ども達が人権学習から学んで、部落差別がなくなることを願います。
- ★差別があることで自分の主張ができないということのない毎日が続くように、できることをしてほしいです。
- ★結婚差別についての講演を聞いて、部落差別が今の社会にはあってはいけないものと感じ、自分もその間違いを正していきたいという考えをもてたようです。当事者の方のお話を聞いて身近に感じられ、真剣に考えるきっかけを与えてくださり、ありがとうございました。

教職員の感想より

今回の中原先生の講演から、子どもたちは、自分にとって部落差別や結婚差別がそう遠くはないということを実感したようです。人権学習を進めるごとに、子どもたちの人権意識は高まっています。教職員も子どもたちの意見や考えから学び、今後も、一緒に人権問題について考えていきます。



SDGs目標 10「人や国の不平等をなくそう」